

第 3 回認定の公平性に関する評価委員会議事要旨

開催日時：令和 2 年 10 月 23 日(金) 13:00~15:00

場 所：Zoom 会議

議 題：

1. 所長挨拶
2. 委員長挨拶、委員挨拶
3. 前回議事要旨の報告 [資料 2]
4. IAJapan認定活動方針及び認定活動目標 [資料 3]
5. 公平性に対するリスクへの取組みと結果 [資料 4]
6. 令和元年度業務実績 [資料 5]
7. IAJapanの新規業務（ニュースリリース） [資料 6]
8. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応 [資料 7]
9. 不適合、苦情及び異議申立てへの対応 [資料 8]
10. 新規認定プログラムの開発について [資料 9]
11. 適合性評価制度の動向調査・研究会設置について [資料10]
12. その他

配付資料：

資料 1	認定の公平性に関する評価委員会委員名簿	(公開)
資料 2	前回委員会議事要旨	(公開)
資料 3	IAJapan認定活動方針及び認定活動目標	(公開)
資料 4	公平性のリスクに関する報告について	(関係者限り)
資料 5	令和元年度業務実績のポイント	(関係者限り)
資料 6	ニュースリリース一覧	(公開)
資料 7	新型コロナウイルス感染症拡大への対応	(公開)
資料 8	不適合、苦情及び異議申立て	(関係者限り)
資料 9	新規認定プログラムの開発について	(公開)
資料 10	適合性評価制度の動向調査・研究会設置について	(公開)

議事内容：

議題 1. 所長挨拶

認定センター所長 岸本より開会の挨拶を行い、併せて事務局から交替委員の紹介を行った。

議題 2. 委員長挨拶、委員挨拶

武田委員長及び各委員から挨拶が行われた。

議題 3. 前回議事要旨の報告 [資料 2]

前回議事要旨の報告を行った。

委員から特段の意見はなかった。

議題 4. IAJapan 認定活動方針及び認定活動目標 [資料 3]

IAJapan 認定活動方針及び認定活動目標を説明した。

委員から特段の意見はなかった。

議題 5. 公平性に対するリスクへの取組みと結果 [資料 4]

公平性に対するリスクへの取組みと結果について報告した後、以下の質疑が行われた。

- ・ No.14 のリスクの特定要因として「ライバル会社の役員とつながりがあることが確認された」とあるが、これは注記にあるリスクの発生源のどれに該当するか。
→注記はあくまでも ISO/IEC 17011 上の例示であり、必ずしもこのどれかに当てはまるというわけではないが、近いものとしては、[その他の関係]、[要員、審査員等：他組織との兼務]になると考えられる。
- ・ 認定機関も認証機関も公平性管理については苦勞するところだが、可能な限り注記に当てはめながら、それ以外についても公平性が担保できているという前提で運営されるのが望ましい。苦情がきたから何が何でも対応するとなると際限なくなる可能性がある。毅然としたポリシーをもっていただけると良い。
→承知した。
- ・ 今回の方式は事後的なフォローだが、事前段階でのリスクアセスメントは今も内部的に行っているのか。
→事前に想定したリスクを意識して日々の業務を実施している。
- ・ 申請事業者から「ライバル会社の役員と深いつながりがある」と指摘されたことについて、事前に把握できなかったのか。
→いくつかのタイミングで審査員と審査対象事業者の関係については確認しているが、ライバル会社との関係までは把握できていなかった。しかしながら、事業者からの指摘について然るべき対応をしたと考えている。
- ・ 認定プログラムを動かしていく中で今後もこのような事象が出てくると思うが、ある意味それは健全な状態であると言える。出てきた事象を蓄積し、知見としてリスクへの対応にどのように結びつけていくかが重要。今回その一步を踏み出したというのは非常に良いこと。
→内部で検討し、より良い取組みとなるよう改善していきたい。

議題 6. 令和元年度業務実績 [資料 5]、議題 7. IAJapan の新規業務 (ニュースリリース) [資料 6]

昨年度業務実績を報告した後、以下の質疑が行われた。

- ・標章付証明書発行件数の増加を目標として掲げているが、ある意味それは品質を落とせば可能になってしまう。はじめから指標として何%増加させるというのは、品質の確保という面では誤解されやすいのではないか。

→来年度の指標をどうするかについては検討しているところ。

- ・定量的に示すことは難しいが、証明書の発行が社会にどのように役立ったかアウトカムの視点で示せると良い。また、実績として多くの記載があるが、今後どのようなところに重点を置いていくのか、ロードマップ的なものがあれば共有していただきたい。

→今後の方向性については、議題 11.の適合性評価制度の動向調査・研究会で検討していく予定。

- ・新規認定制度について、エンカルな繊維製品などは消費者としても注目しているところ。今後も前向きな目標を立てて進めていただきたい。

→承知した。

(委員会後コメント)

- ・ニュースリリースの中に混合標準物質に関するものがあるが、現状で申請や認証が始まっているのか。

→既に認証されている事例がある。

議題 8. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応 [資料 7]

IAJapan の新型コロナウイルス感染症拡大への対応を説明した後、以下の質疑が行われた。

- ・会議や書類審査は WEB ツールで実施しても大きな問題はないが、キャリブレーションや試験を遠隔で確認するのは難しいのではないか。

→現場の空気感がわかりづらい、通信環境に影響されるといった問題がある。そのため、現在は新規の申請事業者を中心にできる限り現地審査を実施するようにしている。今後は現地審査と遠隔審査を上手くミックスして運用していきたいと考えている。

議題 9. 不適合、苦情及び異議申立てへの対応 [資料 8]

主要な不適合、苦情への対応について報告した後、以下の質疑が行われた。

- ・記載されている不適合は、色々と事象があった中で不適合と判断したものか。内部監査やマネジメントレビュー以外で発見したということか。

→そのとおりである。日頃の業務の中から不適合として発見したもの。

- ・書類紛失やメール誤送信について、対策を全て行うとなると負担が大きくなり、逆に対応を怠ってしまうおそれがある。重要度で対応を分けるなどすれば、より実効性が増すのではないか。

→現状の対策によって利便性が損なわれていることはないと認識している。また、事象が頻発したことや個人情報漏洩につながるおそれがあることを考慮し、重要度は高いと考えている。

議題 10. 新規認定プログラムの開発について [資料 9]

新規認定プログラム (ISO/IEC 17020) について説明した後、以下の質疑が行われた。

・ ISO/IEC 17020 単独での認定と捉えてよいのか。それとも ISO/IEC 17065 のパッケージとして ISO/IEC 17020 の認定を想定しているのか。

→ISO/IEC 17020 単独での認定を考えている。

・ 機能安全だけでなく、一般的な検査機関も対象になり得るということか。

→将来的にはあり得る。

(委員会後コメント)

・ 17020 認定の適用事例としてロボットが紹介されたが、例えば、ロボットを制御するファームウェアなどソフトウェアを設計、開発する組織も適用範囲なのか。IoT 機器のファームウェアなどはハードウェア等の装置の中に入り込むので、境界が気になる。

→事例として紹介したロボット安全規格に基づく機能安全部分の 17020 認定では、該当する場合、制御システムなどソフトウェアも含んで評価を行うことになるが、ソフトウェアを設計、開発する組織だけを切り出した形での認定というのは現時点では想定していない。しかし、そのような認定ニーズが高いようであれば、今後の対象として検討したい。

議題 11. 適合性評価制度の動向調査・研究会設置について [資料 10]

適合性評価制度の動向調査・研究会設置について説明を行った。

・ 取組みとして注目している。必要があれば協力したい。。

→是非お願いしたい。

議題 12. その他

・ 次回 (第 4 回) 委員会の開催は 2021 年 7 月から 10 月を検討している旨の連絡があった。

以上